

# 911、 その結果、 誰か喜んでる人 いる？



第7巻第9号  
通巻第81号

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番44号 〒166-0015からす新聞本社

からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : [colors@go-karasu.com](mailto:colors@go-karasu.com)

夏は終わった。そういう印象。うじうじと暑い日があったり、急に冷え込むような日があったりしながらも、気がつく、最早夏は終わってしまったのだなあ、と誰もが納得するほどに夏が終わってしまった。毎年のことである。

朝目が醒めて、ぼんやりと、朝だなあ、と感ずる。早く目醒め過ぎた時など、辺りは真っ暗であるけれど、そんな時でも、それなりに睡眠が摂取できていれば、朝だなあ、と思ふ。今は朝が浅いのか夜が深いのか。あるいは、これは未明なのか、明け方なのか、などと悩んだりはいないのである。ハンブレイ・ダンブレイの言い種のようにだが、俺様が朝だと思えば朝なんだよ、とね。

同じように時節刻限の類を語る場合でも、時分秒や年月日なんぞを用いるとなると、事情は大きく異なることになる。何はともあれ、日本人のような几帳面な人種には、時間に正確であることは何かと便利なものである。そのことは、世に言うラテ欄や電車の時刻表、あるいは歴史年表や時間割などなどに代表される表(テーブル)に分類されるようなものにおいて顕著である。これが、朝一で数学やって、その後は体育が音楽くらいでど

うよ、というような曖昧な約束であったらどうだろうか。何時なのかは判らんけれど、兎に角、朝一の数学には間に合わせるかってんで、取り敢えず、電車の時刻表を眺める。方南町行きはざっと十五分間隔くらいですよ、でも、二分で来ちゃうこともあるかもしれない、などと書かれていたらどうだろうか。私は困らんけれども、困る人もたくさん出てきそうではないか。授業の一つや二つぐらいならどうということはないかもしれないが、それが、重要なビジネス上の契約のためのミーティングであったり、大切な人との今生の別れともなりかねない大きな手術であったりしたらどうだろうか。時間割とかいって、うつとーしんだよ、と言っていた人の中にも、なきやないで不便かもなあ、という気になる人だっけいなことはないだろう。

表の類に確かに便利な側面があるのは否めないけれど、我々の日々の生活は、多くの場合、それほど精密さを必要としてはいない。例えば、何時にどこで待ち合わせようぜ、というような場合を考える。

私は人に待たれるのが嫌だし、人を待つのはもつと嫌いだ。それでもどうしても待ち合わせねばならん、となると、私のこの

(最終面に続く)

### 今日の紙面から

- 二面(からすライブラリー)
- CD『モータウン・シングル・コレクション』
- 映画『マダガスカル』
- 三面(ロンドンレポート)
- レゲエは全開でよろしく
- 三面(語面)
- なんでもアプロウブリアット

### からす新聞はxxxxx

が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。

誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。



# Hitsville USA the Motown Singles Collection 1959-1971

Motown、1992年、3746363122

# Hitsville USA the Motown Singles Collection 1972-1992

Motown、1993年、012 159 027-2



これからも度々引っ張り出しては聴いてしまつたろうけれど、正直なところ、80年ぐらいたままで十分だな。このアルバムを聴き終えたら、次は「永遠のモータウン」を観てみるといい。で、また8枚組を頭から聴いて……って、限りがない。取り敢えず、一杯やろうぜ、ベイビー。

(全太)

ちょいと前に『ジャッキー・ブラウン』という映画を観た。タランティノーには、善くも悪くも独自の美意識が明確に存するよな、と素直に思う。作中で繰り返し使われるデルフォニックスがあまりにもいかしていたので、すかさず、購入。鼻歌交じりでリピートしていたら、今度は、どうにもモータウンが聴きたくなくてきて、この4枚組2セットに及ぶ、押し潰されそうなほどのヴォリユームのコンピレーションを手に入れた。

時系列に則って、モータウンを聴きまくる。かなり痺れる。同時代体験ではないのに、途轍もなく懐かしい前半。泣きそつだ(嘘だけどさ)。途中からはリアルタイムで聴いたものばかり。記憶の中の妙な想い出との絡み合いにくらぐらする。京都のホテルのディスコのカウンターでミラーボールの煌めく中「スリー・タイムズ・ア・レイディー」。「アップサイド・ダウン」を聞いてたら、遠山が沖繩に帰っちゃったんだ、と小原が呟いた西荻のアパート。シラヘンってさ、黒人としては結婚しないんだってよ、マイケルのためなら死ねるなんて言ってる……と噂話は「レッツ・ゲット・シリラス」をBGに荻窪の喫茶店でありました。

## マダガスカル (Madagascar)

2005年公開 (アメリカ)

監督: エリック・ダーネル、トム・マクグラス

出演: ベン・スティラー、クリス・ロック、ディ

ヴィット・シュウィンマー、ジェイダ・ピ

ンケット・スミス、トム・マクグラス、サ

シャ・パロン・コーエン



「シュレック」等々で次々とアニメの興行成績を塗り替えているドリームワークスアニメーションの新作。お話は、ニューヨーク・マンハッタンにあるセントラルパーク動物園で優雅な暮らしをしている人気者のライオン、シマウマ、キリン、カバの4人がアフリカ大陸の西側に浮かぶ「マダガスカル」へ流れ着き、野生を体験していくうちに一番大切なモノを見つけるという、ごくありふれたもの。

ドリームワークスとは、スビルバーグが作ったハリウッドのメジャースタジオで「アメリカン・ビュティ」「ディーブ・インパクト」「キャスト・アウェイ」等、数多く制作している。巨額の製作費を投じる事が出来るのは言うまでも無く、主演にもトップスターを起用出来るのだからオスカー獲得も不思議ではない。もちろん、この「マダガスカル」にもアニメながら巨額の製作費が投じられているのだが、そのほとんどは新しいアニメーション技術に使われている。なんでもライオンの鬣の一本一本全てにアルゴリズムを組み込んで独自の動きが出来るようにしたそう。

だがしかし、この映画の見どころはそんな技術や

本筋にあるのではないのだ。主役は前述した4人なのだが、正直なところありふれたと言わざるを得ない。しかし、脇に出てくるテロリスト・ペンギンズの4人、スキッピー、リコ、プライベート。それに、マダガスカル

ペンギンズの言動の一つ一つがブラックユーモアに彩られている。「皇帝ペンギン」というドキュメンタリー映画が話題になったが、これを見ていれば、さらに入り込める事、請け合い。全編を通して彼らが軍隊調であることも笑いを誘う要因となっている。

マダガスカルに実際に生息しているメガネキツネザルの種類は数百種と言われている。そのメガネキツネザルのボスが、キング・ジュリアン13世。米語の俗語で言う「パーティー・アニマル」(パーティ好きな連中)そのもの。彼の所作一つ一つがペンギンズに劣らず、ユーモラスでとんちが利いている。担当する声優は、英語の訛りを10種以上のアクセントで発音出来るそう。日本で言えば、北海道弁、東北弁に始まり、関西弁はもちろん、博多弁や沖縄弁まで全てネイティブに話せるといった所だろうか。

何はともあれ、この「マダガスカル」はペンギンズとキング・ジュリアンを観るといっただけでも充分価値がある。なお、この映画は字幕で観る事を強くお勧めする。

(小張寅僧)



ろんとん つうしん  
London Report



「そういやあ、あの子は肌をむやみに出しちゃいけないのか」  
(最終面に続く)

レゲエは全開でよろしく

先月の終わりにノッティングヒル、カーニバルがあった。毎年恒例のカリビアンなこのイベント。規模はかなりでかく、ロンドンで行われるお祭りの中でもトップクラスでは悪い。にしても、がらが悪いといつても一般人が行けないほどではなく、ちよつとラフな感じがするだけ。何年か一度は殺傷事件が起きたりするが、それは交通事故のようなもので普通の人が巻き込まれたりはいない(だろう)。さしあたって気をつけなければいけないのはスリぐらいなものだ。そんなこんなで今年はなんと二日で百万人の人が訪れたそうだ。

そんな話をゴクのニュースで聞き、何だか天気がいいのでちよつと覗きに行ってみることにした。家からは歩いて行ける距離なので、カーニバルを見に出かけるといった気合いの入った気持ちではなく、散歩ついでに覗きに行くといった感じ。近くの大通りに出ると、もうそこは人でいっぱい。通行止めになったその通りは、一直線にカーニバルへ続く。台風でも来たのか？道端は信じられないくらいにゴミが溢

れている。ビールの空き缶が沢山。みんな飲みながら、食いながら歩く。通りの至る所でお店、レストランなどが出店を出している。僕はその光景を見て「こんな所まで熱気が伝わってくるのか」と、余りにもいつもと違う雰囲気、ビックリしながらも何だか嬉しくなってしまう。祭りの方へと歩いて行くと、車通行止めになったそのエリア一帯はパレードが回っていたり、お店が音楽をガンガンにかけていたり、と大騒ぎ。何にせよ本当に人が多いのだ。それにしても、黒人さんメインなこのお祭り。やつぱりパワーが違う。パレードのトラックからはレゲエやら何やらがガンガンと大音量でかかりまくる。そのまわりで、仮装した色とりどりの人達が踊りまくる。沿道の色んな所から葉っぱの匂いがし、みんなビール、ワイン、ヴォッカと酒がいい感じに入っている。ポプマーリーの曲だったか、誰かの曲が流れて、大合唱。僕らも浮かれながらパレードを眺めていた。しばらくして、ふつと横をみるとパキスタンの子供たちが、僕らと同じように沿道から目を輝かせてパレードを見ているのに気が付いた。兄弟だろつか？男の子2人に、女の子が1人。女の子は黒い布を頭からきれいに巻いて顔だけ出している。

なんでもアプロウプリアット  
anything appropriate

9月15日、北京において行われていた「6カ国協議」(the Fourth Round of the Six-Party Talks) がひとまず終り、共同声明(Joint Statement)が出された。

The DPRK committed to abandoning all nuclear weapons and existing nuclear programs and returning, at an early date, to the Treaty on the Non-Proliferation of Nuclear Weapons and to IAEA safeguards.

北朝鮮は、一切の核兵器及び現在の核計画を放棄し、早期に「核拡散防止条約」(NPT)に復帰し、及び国際原子力機構(IAEA)の監督の下に戻ることを承諾した。

これはいいのだが、問題はここ。

The DPRK stated that it has the right to peaceful uses of nuclear energy. The other parties expressed their respect and agreed to discuss, at an **appropriate** time, the subject of the provision of light water reactor to the DPRK.

北朝鮮は、核エネルギーの平和利用に関する権利を有すると述べた。他の参加国はこれを尊重すると表明し、北朝鮮への軽水炉提供の問題について、**適当な**時期に話し合うことに同意した。

そう、アプロウプリアットである。

本紙において、私は過去に二度、この言葉を話題にしている。最初は第4号で、1998年8月17日の米クリントン大統領による不倫疑惑釈明スピーチでの、

Indeed, I did have a relationship with Ms. Lewinsky that was not **appropriate**. In fact, it was wrong.

たしかに、私はルインスキさんと関係を持ち、それは適切ではありませんでした。実際、それは間違っていました。

そしてつい先月、前号では、ブッシュ大統領にも影響力を持つという保守的テレビキリスト教団のリーダーが、ベネズエラのチャベス大統領を名指しで暗殺すべきだと呼びかけたことについて、国務省が“**inappropriate**”。これは反意語で、「不適切な」。

あいまいな言い回しが常用される政治の世界だが、“appropriate”は日本語の「適切な」とまったく同じで、その代表のひとつ。本来の意味で使うのなら良いが、時としてまったく意味を為さない。だから文言として妥協しやすい。今回がそれ。結局、合意の翌日から北朝鮮は「軽水炉が先」と絶叫、アメリカは当然「核放棄が先」で、妥協の余地なし。

我が国では小泉首相御用達。郵政民営化も解散総選挙も“appropriate”判断。靖国神社参拝やイラク撤退は“an appropriate time”に決行される。

(望月)

(三面から続く)

ふとそんな事を思う。

僕らの目の前では、殆ど裸同然の黒人の女の子がリズムに合わせて腰を振っている。レゲエは全開。ビールを浴びながらマイク片手に叫ぶ。鳴り響く笛。踊り子達はますますリズムを刻む。お祭りは止まらない。

あの女の子と僕と踊り子。三つの全く違う人種と、文化。ただその時、皆がそこにいただけなのか。何だか凄く不思議だった。

帰り道はずっとウキウキしていた。お祭りの後は気分がいい。そして僕は、スーパーでアイスクリームを買ったのだ。

(神山)

(一面から続く)

二つの嫌いな気持ちを選けるためには、お互いが同時に目的時刻に目的地に到着せねばならん、ということになる。けれども、本当の厳密さを求めると、そんなことは不可能である。例えば、こんな話。紀伊國屋の太い柱の前で、丁度顔を合わせて、やあやあ、ぴつたりですね、と喜んだところ、先方は同意しない。お待ち下さい。私は柱正面から十五センチ、それに対して貴殿は二十七センチの所にいますね。つまり、これは私の方が十二センチ分先に着いたということの証左でありましょう。私のせかせかせした歩行速度は凡そ時速六キロ程度ですからね。十二センチと言えば、コンマ〇七秒ほど私の方が先に着いたことになる……などと言い出されたら、返す言葉がないので、言葉の代わりに踵を返して、ス様に細々したことを申し立てる御仁とは今

後一切のお付き合いを御遠慮申し上げる。ほな、さいなら……などと……などということはその簡単に起こりはしないけれども、絶対に起こらないとも言えない。ああ、一体、私は何の話をしているのだろう。

要するに、何の話かと言つと、仕組みや制度としての時間は、表様の正確さを持つに越したことはないが、この世界はきちんと切り分けることなど不可能なアナログなものであり、そこに蠢く個々の人間というものは大いに雑な生き物であり、何とも大雑把に生きていくのであるから、あんまり細かいこと言つなよ、ということである。時間を利用することとは結構だが、時間に支配される事勿れ、と。

今月からゴミの収集時間が三十分早まることになりました。杉並区からそんなアナウン

### bar&kitchen kanna

お一人でも気軽に楽しめる、食事もできるShotBarです。ビール、バーボン、焼酎からカクテルまで、豊富なお酒と、季節の素材を取り入れた手作りのオリジナル料理を、4/500円~と手頃な料金でご提供いたします。木とテラコッタを基調にしたギャラリー風の店内は舞台スタッフの手作り。ぬくもりの中に遊び心が溢れ、くつろげます。作品の展示、音楽、演劇等のイベントも企画スペースの提供も行ってまいりますので、興味のある方はご相談ください。各種パーティー、打ち上げにも最適です。



スがあったのはいつのことだったか。成程、つまり、これからは今までより三十分早くゴミ出しすれば良い訳であるな、と。その意味するところを理解。ここまでは難しくない。だが、待てよ、元々の時間って何時だったんだろ、などと思うと大変である。私の記憶の中のゴミ出しの時間指定は、鳥対策のため、夜ではなく朝になってから出しましたよ、というだけのものだった筈。なのに、今までより三十分早く出せ、だ。そこには感覚的なざつとした時間と表としての正確な時間とが混在しており、私を混乱に陥れ、暫し呆然とさせ……ということはなく、まあ、何となく、いつもより三十分くらい早くってなりのり出せばいいんだよな、と軽々と納得している私がいる。人間様というのはなかなか気の利いた生き物なのである。

(全太)



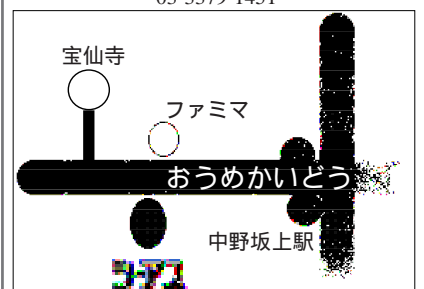
Ken-ichi Shinozaki,  
architect

Voice : +81-3-3220-0644  
Facsimile : +81-3-3220-0640;  
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp  
篠崎健一アトリエ

1クラス4人までの少人数制学習塾



中野区本町2-50-12 ドエル中野201号  
03-3379-1451



編集後記  
からす新聞第七巻九号(通巻第八一号)、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発行予定日は二〇〇五年十月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。